
中国経済レポート No.34

「中進国の罭」か「後発先進国の悩み」か
～ 貿易構造からの検証

【目次】

- 1. 「中進国の罭」.....p.1
- 2. 産業構造の高度化が鍵.....p.2
- 3. 輸入部品依存症の懸念.....p.3
- 4. 「後発先進国の悩み」.....p.5

三菱UFJリサーチ & コンサルティング株式会社

調査部 野田 麻里子 (chosa-report@murc.jp)

〒108-8248 東京都港区港南 2-16-4

TEL: 03-6711-1250

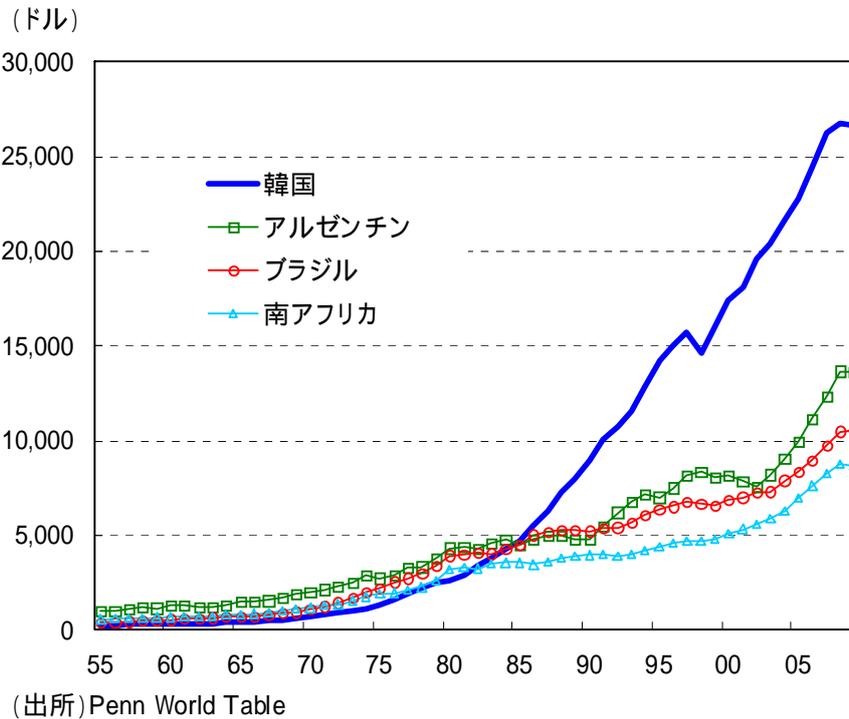
1. 「中進国の罠」

今年5月、アジア開発銀行（ADB）が『2050年のアジア～アジアの世紀の実現に向けて』¹と題する報告書を発表した。その中でADBは「2050年には世界のGDPに占めるアジアのシェアは51%と半分を超え、アジアは産業革命以前およそ250年にわたって世界経済において占めていた支配的な地位を再び手にするかもしれない。これは『アジアの世紀』と呼ばれるだろう。」との見通しを明らかにしている。

ただし、このシナリオが実現するためには中国をはじめとするアジアの中進国が「中進国の罠」にはまらないことが前提である。「中進国の罠」とは貧困状態から抜け出し、中所得水準を達成した中進国の経済が停滞し、先進国レベルに到達できなくなる状態のことを指すとされる。低賃金諸国の追い上げにより軽工業品などの輸出で競争力を失う一方、先進国の高い技術水準には届かず結果として輸出競争力を失ってしまうことがその一因とされる²。

「中進国の罠」の議論では、罠にはまってしまった典型的な例としてブラジルなど中南米諸国や南アフリカが、また罠にはまらず先進国レベルに到達した例として韓国が取り上げられることが多い。実際、図表1が示すように80年代初めまでブラジル、アルゼンチン、南アフリカと韓国の一人当たりGDPはほぼ同水準にあったが、その後、韓国の一人当たりGDPが順調に伸びていったのに対してブラジル、アルゼンチン、そして南アフリカはこれに大きく遅れをとってしまっている。

図表1. 一人当たりGDP(PPPベース)の推移



¹ “ASIA 2050: Realizing the Asian Century,” Asian Development Bank, May 2011.

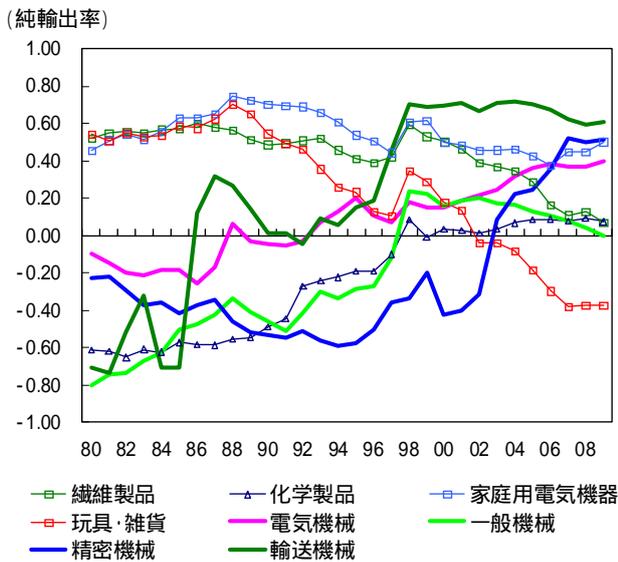
² Ibid. page 9.

2. 産業構造の高度化が鍵

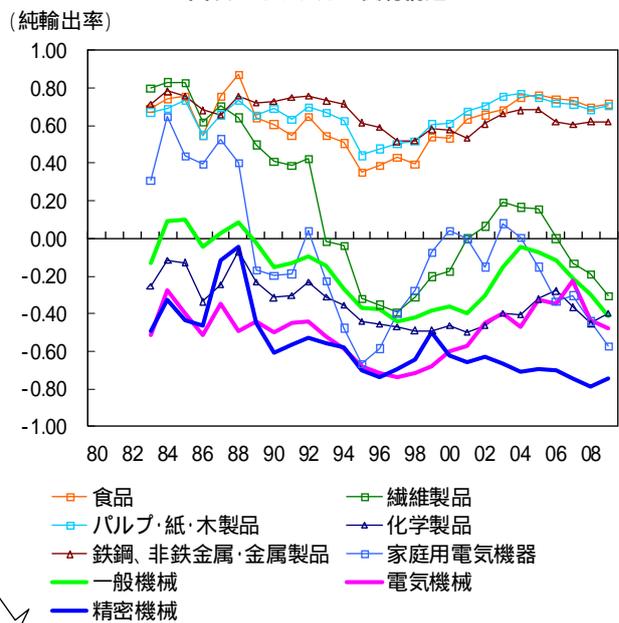
韓国が「中進国の罠」を乗り越えられたひとつの要因は同国が着実に産業構造を高度化していったことにあると考えられている。そこで商品別純輸出率³という指標を使って貿易構造から韓国とブラジルの産業構造の高度化の状況を検証してみた（図表2、2a、2b、3）。

これを見ると、韓国では、80年代後半以降、繊維製品、玩具・雑貨など軽工業品の国際競争力が低下する一方で、これと交代するように電気機械、輸送機械など高付加価値品が競争力を高め、産業構造が高度化している様子がうかがわれる。これに対して、ブラジルでは、繊維製品、家電の競争力が低下した以外はほぼ80年代後半から2000年代まで韓国で見られたような大きな貿易構造の変化は見られない。ここに「中進国の罠」を回避できた韓国と罠にはまってしまったブラジルの差の一因があるようだ。

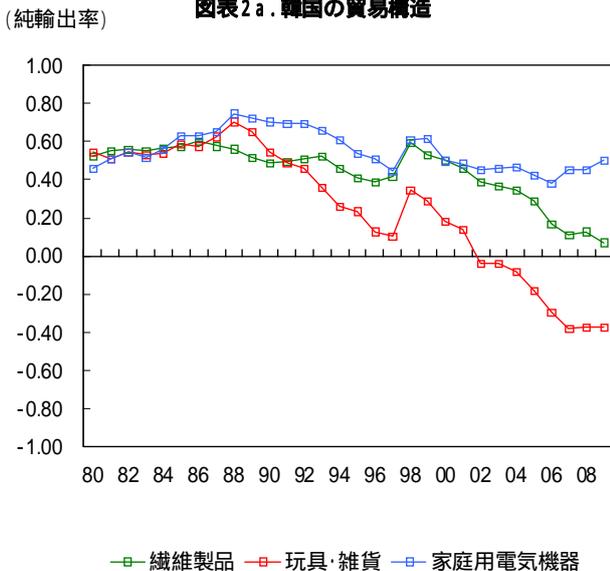
図表2. 韓国の貿易構造



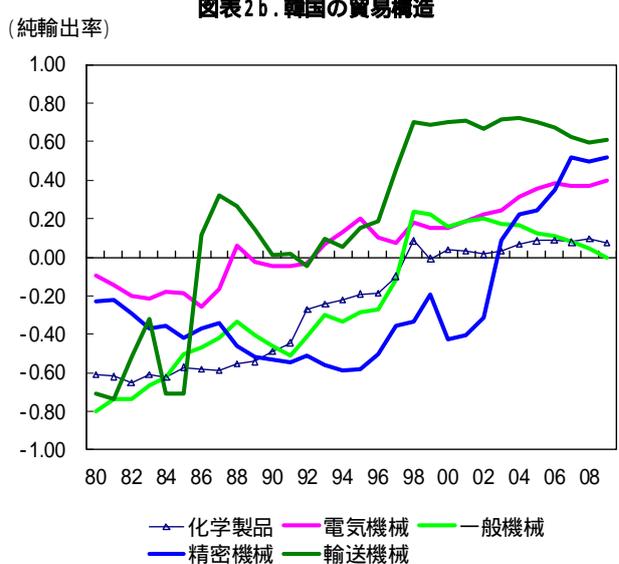
図表3. ブラジルの貿易構造



図表2a. 韓国の貿易構造



図表2b. 韓国の貿易構造

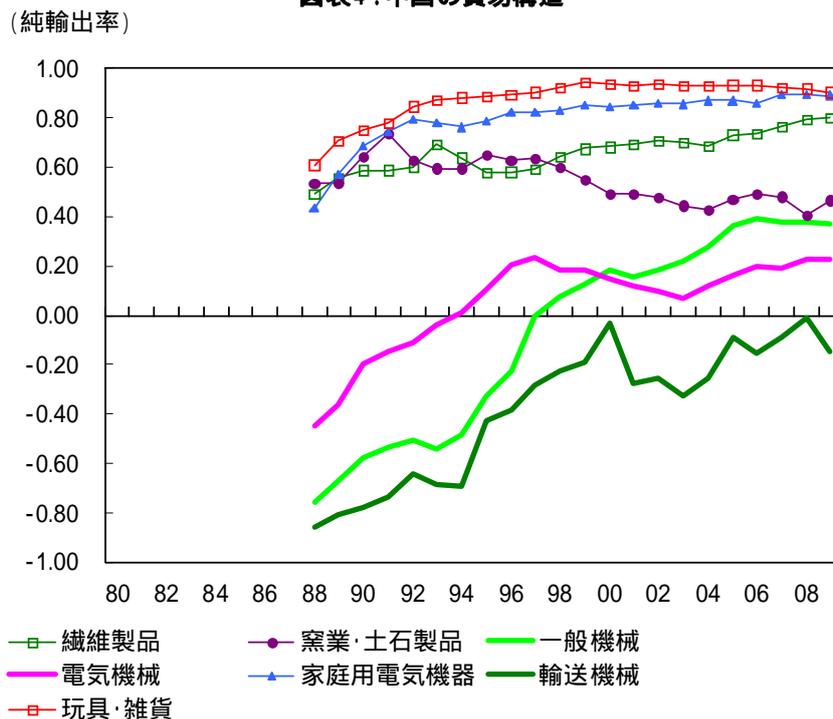


(出所)RIETI-TID2010

³ 純輸出率は (輸出 - 輸入) / (輸出 + 輸入) で示される指標で、マイナス1からプラス1までの範囲の値を取り、値が大きいほど国際競争力が高いことを示す。

翻って中国の貿易構造を見ると、繊維、玩具・雑貨などの軽工業品が依然として国際競争力を維持している状況はブラジルと同じだが、一方で一般機械、電気機械など高付加価値品目の国際競争力も高まっている。韓国のように軽工業品と機械類の主役の交代といった明確な形での産業構造の高度化は見られないものの、高付加価値産業の台頭により、ゆるやかながらも着実に産業構造の高度化が進んでいると言えそうだ。韓国とはやや違う中国モデルと言えそうだが、産業構造の高度化が見られることに注目すれば、中国も韓国同様、「中進国の罠」を回避できる可能性が高いのではないかと考えられる。

図表4. 中国の貿易構造



(出所) RIETI - TID 2010

3. 輸入部品依存症の懸念

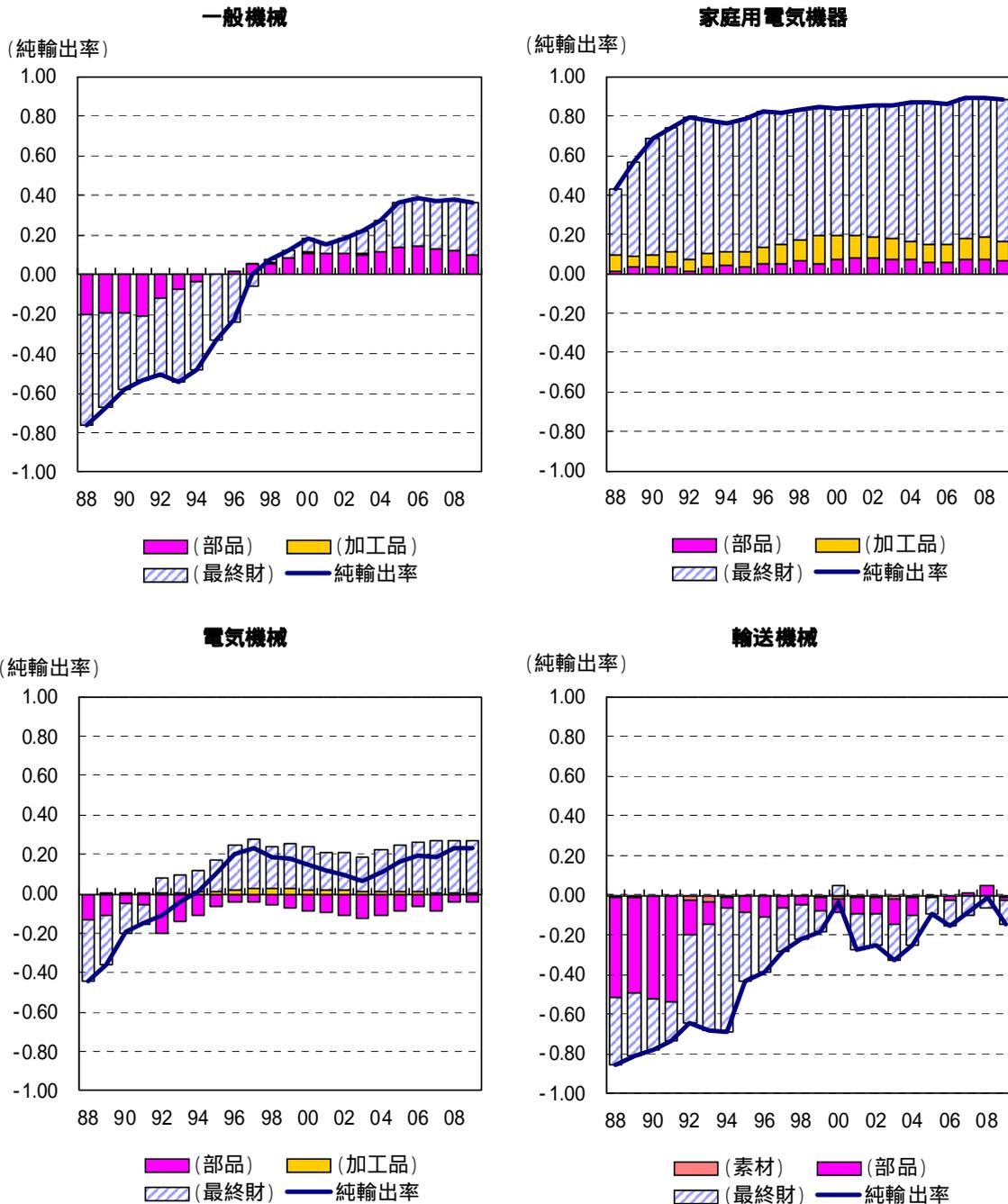
前述の通り、商品別貿易構造の分析からは中国で機械類など高付加価値品目の国際競争力が着実に向上していることがわかる。しかし、表面的な貿易構造の高付加価値化とは裏腹に、中国国内で実際に追加された付加価値は限界的との指摘がある（ADB ワーキング・ペーパー）⁴。このレポートの分析によれば、中国から米国に1台178.96ドルで輸出されるiPhoneは日本、ドイツ、韓国から輸入された部品を組み立てただけであり、中国国内で追加された付加価値は6.5ドルと最終製品価格のわずか3.6%に過ぎないという。

また、2011年8月29日付けの日刊中国通信によれば、中国の建設機械産業は三一重工など世界的な大企業を有するものの、最終製品メーカーの急成長に比べて、部品メーカーの成長が遅く、輸入部品への依存が高まっており、こうした「輸入依存症」が産業の発展の制約要因となっているとの指摘があることを紹介している。

⁴ “How the iPhone Widens the United States Trade Deficit with the People’s Republic of China,” by Yuqing Xing and Neal Detert, ADBI Working Paper Series No.257 December 2010. Revised May 2011.

そこで中国の機械類の純輸出率を生産段階別の寄与度に分解してみると（図表5）、一般機械や家庭用電気機器では最終製品、部品や加工品など中間財のいずれにおいても国際競争力が高いものの、iPhoneを含む電気機械については、最終製品段階で高い国際競争力を有するため、電気機械全体では国際競争力は高いという姿となっているが、部品については2009年時点でも依然としてマイナスで推移しており、前述のADBのレポートが指摘するように電気機械類の部品の国際競争力は低く、輸入部品に依存している状況がうかがわれる。なお、輸送機械は最終製品、中間財のいずれも未だ国際競争力が低い状況にある。

図表5. 中国の機械類の純輸出率の生産段階別寄与度の推移



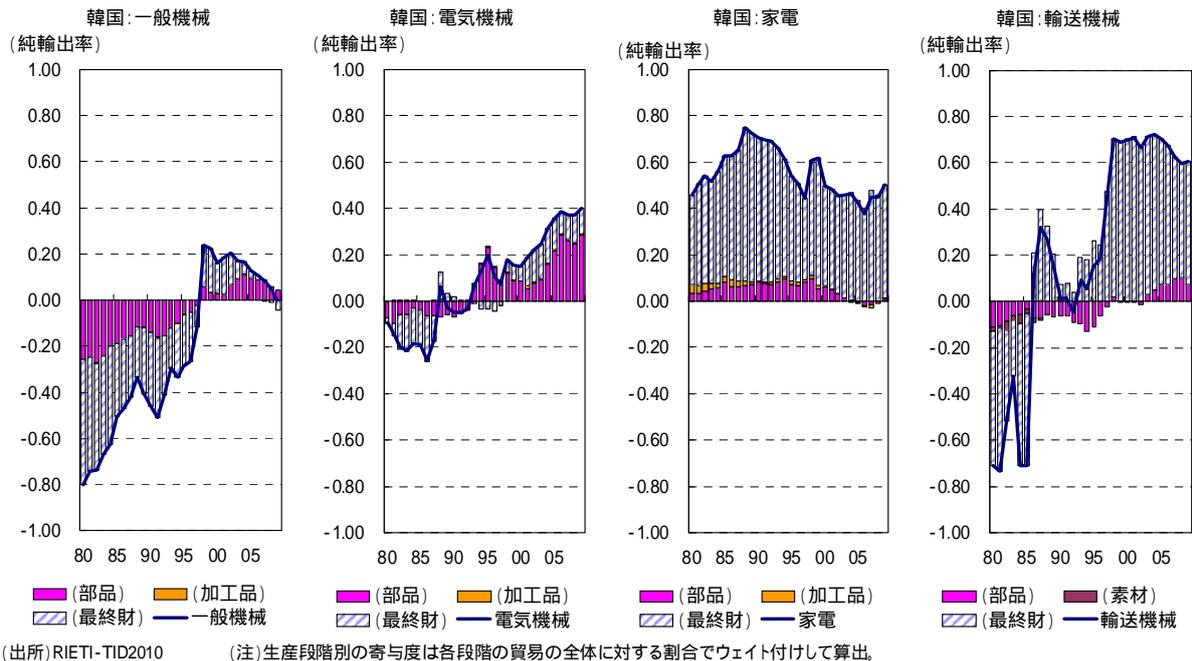
(注) 生産段階別の寄与度は各段階の貿易の全体に対する割合でウェイト付けして算出。

(出所) RIETI - TID 2010

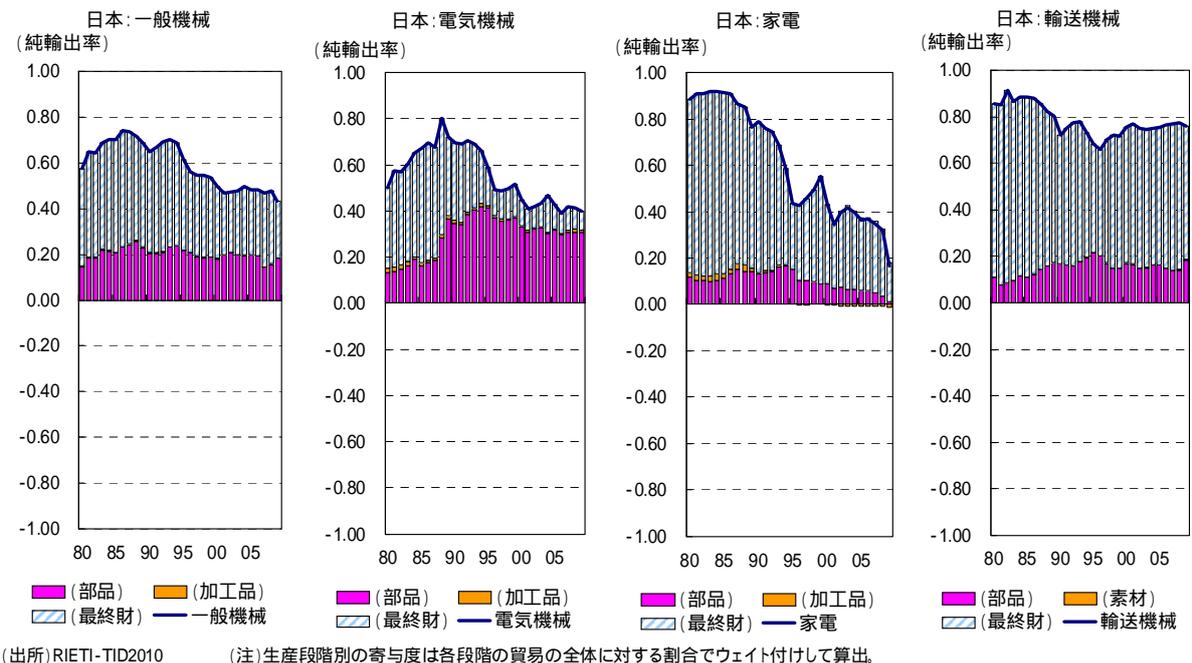
4. 「後発先進国の悩み」

ところで、財閥企業を中心に産業構造の高度化を進めた韓国では長年、部品産業の担い手である中小企業基盤の脆弱さが問題視され、最終製品輸出の拡大が部品輸入の拡大を伴う輸入依存型の産業構造になっていると指摘されてきた。そこで中国同様、機械類の純輸出率の生産段階別寄与度を見ると、特に輸入部品に依存している様子は見られず、電気機械、一般機械、輸送機械を中心に着実に部品段階での競争力を増してきている（図表6）。しかし、最終製品に加えて部品についても高い国際競争力を有する日本の状況と比べるとその差は歴然としており、最終製品段階での国際競争力に比べて、部品段階の競争力は総じて低いと言えそうだ（図表7）。

図表6. 韓国の機械類の純輸出率の生産段階別寄与度の推移



図表7. 日本の機械類の純輸出率の生産段階別寄与度の推移



中進国が産業構造の高度化により先進国をキャッチアップする場合、資本財や基幹部品を先進国から輸入し、最終製品段階に特化し、高付加価値産業の競争力を向上させていく方法は手っ取り早い方法だろう。しかし、基幹部品を輸入に頼る構造のままではなかなか最終製品段階の付加価値を高めるのは難しい。もしこうした状況を「後発先進国の悩み」とすれば、中国は「中進国の罨」に続いて「後発先進国の悩み」に直面しようとしている可能性がある。

産業構造の高度化に加えて、産業の足腰である部品産業、そしてその主たる担い手である中小企業の育成が今後、中国にとって大きな課題となろう。

以上

- ご利用に際して -

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡下さい。